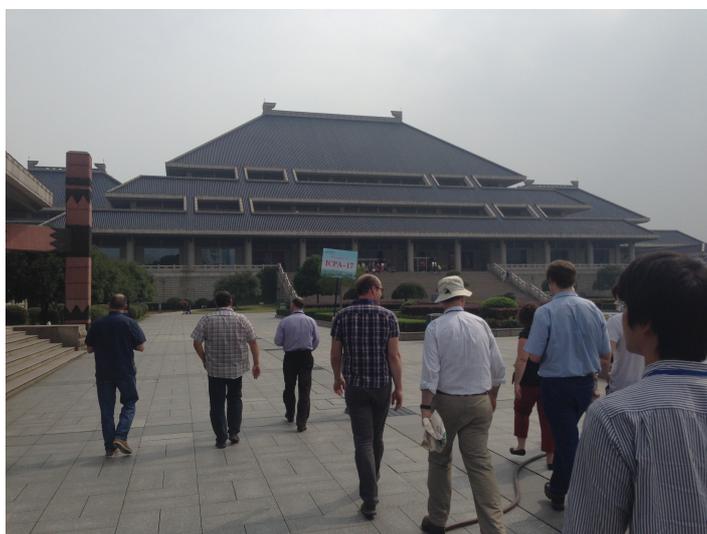


The 17th International Conference on Positron Annihilation 参加報告書

相関基礎科学系博士課程1年 小林 立人 (松田研究室)

「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援で The 17th International Conference on Positron Annihilation(ICPA-17)にて口頭発表を行った。ICPA は陽電子に関する研究を対象にした学会で、三年に一度催される。会期は9/20から9/25で前泊して入り、9/25の午後から帰路に着いた。会場は武漢郊外の湖畔に位置したホテルに付設されており、豪華絢爛であった。アジア・欧州・米国の研究者が参加し、約200件の研究が発表された。

私の発表は3日目に「Sintering mechanism of fine silica aggregates」の題で口頭発表をした。内容は微粒子が融点以下の温度で接合していくという「焼結」の過程を陽電子寿命測定と赤外分光測定の結果を基に、新しい焼結のメカニズムを提案するものであった。焼結は高純度の光ファイバーや触媒の担持体の製造に利用されている。初めての国際会議での講演であり、英語での発表も初めてであったためか、緊張していたようで、学生に「ナーバスになってるね。」と指摘される場面もあった。しかし、国内学会では聞かれなかった質問をされ、意見交換をすることが出来て有意義な経験を得られたと考えている。また、様々な講演を聴講して、自身の研究の陽電子の研究分野での位置づけについて理解を深めることが出来た。本国際会議で得た経験を生かして作成している論文に磨きをかけたく思う。



写真：excursionの様子